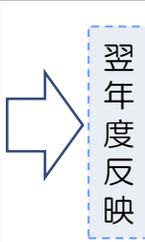
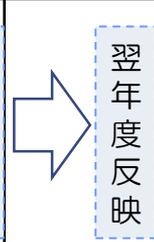
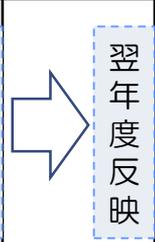
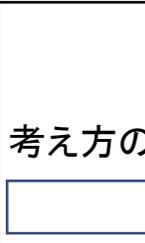


# 連系線の運用容量算出にあたっての 課題と検討スケジュール (案)

平成27年5月26日

項目	課題	検討の進め方	H27年度	H28年度	H29年度
周波数低下限度の閾値	<ul style="list-style-type: none"> <li>50Hz系と60Hz系の低下限度の考え方について妥当性を確認する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各エリアの周波数低下限度の考え方を確認し、考え方の統一化を検討</li> </ul>			
系統特性定数の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>周波数限度の算定に用いる系統特性定数の裏付を確認する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実事故データを用いた系統特性定数の妥当性を確認</li> </ul>			
再生可能エネルギーの考慮方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネ普及拡大を踏まえ、同期安定性、電圧安定性、周波数維持の検討への影響とシミュレーションへの織り込み方法を整理する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネの模擬方法、導入量などを検討する</li> </ul>			

項目	課題	検討の進め方	H27年度	H28年度	H29年度
フリンジ分※の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>変動が大きい再エネの普及拡大により、フリンジ分が大きくなる懸念があるため、実績を確認する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各連系線のフリンジ分の実績を毎年確認し、過去からの傾向を分析する。</li> </ul>			
フリンジ設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>フリンジ設定時に用いる標準偏差の取扱いの考え方を整理する必要がある</li> <li>フリンジ設定値の刻み幅の考え方を整理する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの考え方を整理し、フリンジ設定、シミュレーション刻み幅とあわせて、総合的にリスク等を考慮のうえ検討を行う</li> </ul>			
シミュレーション算出時の刻み幅	<ul style="list-style-type: none"> <li>妥当なシミュレーションの算出刻み幅を整理する必要がある</li> </ul>				

※ 送配電等業務指針第167条第2項及び第3項に規定される同期安定性及び電圧安定性の運用容量算出において、各制約要因での限界となる連系線潮流の最大値から控除されるもの（瞬時的な変動に伴う潮流の偏差量）